



平成24年6月に文部科学省が示した「大学改革実行プラン」を具体化するために、「ミッションの再定義」が国立大学法人の機能強化を目的として提起されました。ミッションの再定義とは、各大学法人が将来ビジョンを明確化することで現在果たしている教育的・社会的機能を強化することに他なりません。兵庫教育大学は、既にミ

# 「教師教育における 最高ブランドを目指して」

兵庫教育大学 理事・副学長 福本 謹一

ッションとビジョンを明示して教師教育の先導的役割を担っていることに疑問はありません。

その機能強化のエビデンスについては、学部教員養成課程での教員採用率全国第1位という実績や様々な先導的取り組みの成果の継続性など枚挙にいとまはありません。教育実践学の構築にもつながる「理論と実践の融合をめざす共同研究」の実施もそのひとつです。このような成果や実績が兵庫教育大学のブランド力の形成に寄与しています。

ルイ・ヴィトンにはパリ郊外のアニエールという小さな工場町に誕生したバッグ・メーカーでしたが、19世紀の蒸気機関車や船による旅行ブームに乗って多様なニーズに応える鞆を生み出し



## 兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

第三十七号

平成二十五年四月発行

兵庫教育大学大学院  
同窓会 広報部

たことが現在のラグジュアリー・ブランドとしての基礎となりました。それでは一体、教師教育におけるブランドを形成する要件とはどのようなものでしょうか。

それらの要件を自分なりに考えますと、モードの選別、永続的価値、学びの楽しさの創出、ラポールの醸成、といったものがあげられると思います。モードの選別とは、臨機応変に時の

改革的契機を見逃さずに即応することの意味しています。兵庫教育大学が時宜を得た方略を創出しているからこそ、文科省から期待をもってG.P.や特別経費を獲得することにつながっているのではないのでしょうか。

永続的価値とは、教師教育への考え方にポリシーを持ち、確かな歩みを構築する持続的な過程を重視することです。教育現場のニーズに応えながら教育課題解決に向けて一貫した姿勢で取り組むという創立以来の方針を今後も堅持することが重要です。

学びの楽しさの創出とは、学びをどう有意義なものとして紡ぎ出せるのかという視点です。「エディテインメント」という造語がありますが、これは教育と娯楽とを等価なものとして統合した学びの姿です。ウォルト・ディズニーは、エプコットセンターという施設を1980年代初期に開園しましたが、その典型とも言えるものです。本学でも設置されたラーニングコモンズは、アクティブ・ラーニングを促そうという目論みもあります。アクティ

ブ・ラーニングは、講義においても座学ではなく、ハンズオン型あるいは体験型の教授法で、学生同士の主体的な関わりや試行錯誤によって学びを構成してゆこうとするものです。そこでの学びは、認知主義的で定型化されたものではなく、教師教育の学びに豊かさ

と楽しさを演出するものなのです。ラポールの醸成とは、言うまでもなく大学教員と学部生、院生との信頼関係を構築することです。就学指導に丁寧にあたり、教育的役割期待に応えることがその信頼関係を築く基本ですが、大学教員の多忙化等の理由により充分な対応ができないケースもあり、FD活動などの充実が求められます。

この延長上に大学院や学部の同窓会組織を充実・発展させることがあると言えます。嬉野台地に学びのリピーターとして戻ってもらい、同窓会への参加を常態化するには、教員と院生・学部生の関わり方の濃密さと信頼感なくしては不可能です。

こうした要件を満たしつつ、兵庫教育大学は現職教員の研鑽・研修の場として、また新入教員の養成においてそのブランドイメージを輝くものにしていきます。今後も他の大学とも連携協力しながら、教員養成の高度化を通じて、教師たちの向こう側にいる子どもたちの未来形成を等しく確かなものとする教師教育機関の最高ブランドとなるよう努力したいと思います。そのためにも同窓会の皆様方の一層のご支援とご協力をお願いいたします。

# 第32回 兵庫教育大学大学院同窓会総会・兵庫大会スナッフ

## 総会

第32回目となる今大会は、在学院生15名を含めた200名を超える同窓の仲間が集結し、非常に盛大な会になりました。総会では表彰者4名に加え、役員を辞された5名への感謝状の贈呈が行われました。また井戸兵庫県知事のご臨席他、元学長や元教授のご参加もあり、懐かしい顔合わせができ、とても心に残る大会となりました。



▲実践発表『姫路市の小中一貫教育推進における兵庫教育大学との連携』

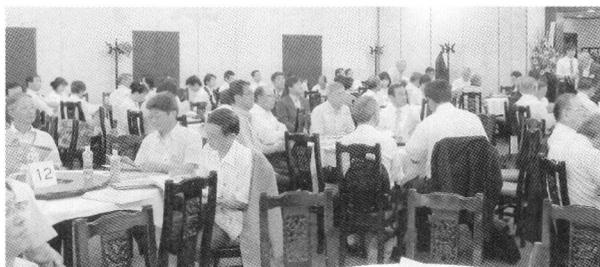
白鷺中学校 横内 恵前校長 山口 偉一教頭  
白鷺小学校 西田耕太郎教頭



▲記念講演『平清盛と神戸』  
園田学園女子大学名誉教授  
田辺 真人氏

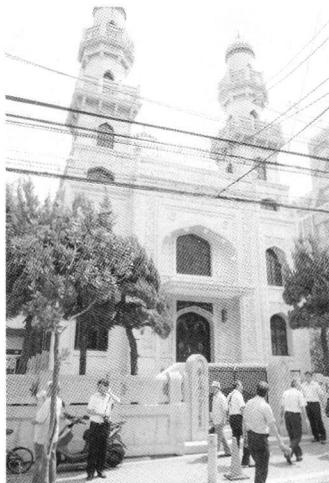


▲来賓挨拶  
兵庫県知事  
井戸 敏三氏



## 巡検

海外居住者の多様な文化や在神の外国宗教施設などを巡りました。



▲神戸ムスリムモスク



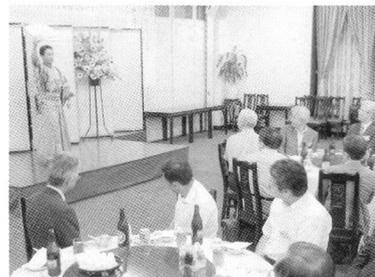
▲神戸ジャイナ教寺院



▲神戸ハリストス正教会

## 懇話会

各地から持ち寄られた銘酒と中華料理に舌鼓を打ちながら、旧交を温め合う姿があちこちで見受けられました。



## 教職の先達

2010-2011  
創刊号



実践と理論の融合

兵庫教育大学大学院同窓会

## ※※出版のお知らせ※※

兵庫教育大学大学院同窓会発行  
教職の先達 (2010-2011)

兵庫大会にあわせ創刊されました。「学校教育の理論と実践の融合」に向けて、実践から気づきを得て、理論に学ぶ、そして再度実践に移すという枠組みにおいて、研鑽を継続する高志を有した教師をめざす、我々兵庫教育大学大学院同窓生の使命感や心意気を可視化するひとつとしての論集です。

※今回参加できなかった同窓生からの声  
毎年参加しておりましたが、今年には都合がつかず欠席します。大橋会長さん、吉田廣参与さん、西川副会長さん、事務局の方々はじめ、皆様によるしくお伝えください。当方、宮城支部発展のため微力ながら努力しております。兵庫大会のご盛會を、心よりお祈りしております。

# 演「平清盛と神戸」

—大河ドラマと街かど学—

## 講

講師 園田学園女子大学名誉教授

田 辺 眞 人

## 律令制の動揺

### 平安遷都が

### なぜ行われたか？

1000年前(701年)に大宝律令ができていた。今の日本もそうだが、公的な法によって日本中を一律に支配するという政治体制が完成した。

その対極のことは、私的な、力による多元的支配。古墳時代は地域の有力者が力を持っていて仕切っていた。

豪族を有力な一族ごとにネットワーク化した。その方法は親分にタイトル(おびと、ふひとなど)を与え、豪族(氏)ごとにかばね(姓)でつづつたシステム(氏姓制度)。

西暦600年を境にして、中国で公的に文章化された法によって全国を一律に支配する政治モデルができた。589年隋の国、618年に唐の国ができる。これにいち早く気付いたのが聖徳太子であろう。607年、608年に小野の妹子を大使に隋に使者を派遣した。しかし蘇我氏にはたちうちできなかった。大政治改革である大化の改新を行い、大宝律令を制定し、公的な法的支配を行った。

701年に作られた大宝律令も100年たつとゆるんでくる。新しい都で新しい改革を目指して行われたのが平安遷都。これが平安前期。

平安遷都まもなくから法律による治安維持の体制がくずれていく。地方の混乱の中で、国府の役人や荘園の荘官、有力な農民は同族の若者や従者を武装化し自警した。これが武士のはじまりである。武士は「音読み」である。中国から漢字が伝わり、「武士」という言葉は中国の言葉。武器はモノと呼ばれ、モノを持つ夫、という意味である。武士は集団化し、強力な武士団となった。地域の連合体ができあがっていく。平安中期から後期。

## 集団化

見上げられる存在である棟梁が出てくる。ネットワーク化し、大きな連合体の象徴的代表が棟梁である。

「平高望」が桓武のひ孫「平」姓を与えられた。上総介の後、東国の大武士団に。桓武平氏と呼ばれた。

「源経基」は清和天皇の孫「源」姓。足立郡司と対立し帰京。承平・天慶の乱。清和源氏。息子の源満中が源氏の

基礎を作った。川西市猪名川の農場を手に入れた。源氏の本家は川西。分家は大阪府太子町に住みつき、発展し河内源氏となる。その子孫が頼朝。

## 平清盛の覇権

平清盛は、保元の乱と平治の乱で頭角をあらわし、番犬の親分と言われていたものが太政大臣となった。一門の公卿化を行い、公卿16人、殿上人30人。西国武士を「家人」化した。地頭制の萌芽。荘園を500か所持して経済基盤とした。1171年に娘徳子を高倉天皇に嫁がせ、徳子は中宮となり、言仁親王が生まれ、後の安徳天皇となる。1180年、天皇の外戚として力は最高となる。以前藤原氏がやってきたやりかたと一緒といえる。その一方で、武士を組織化して家臣としていった。古代の貴族政治と、中世の武家政権の橋渡しとなる。

平氏の福原の荘。摂津の国。今の神戸駅のあたり。造成地を新開地と呼んだ。神戸駅は南北になっている。宇治野川の流域の田畑と旧湊川の田畑を合わせた土地が福原の荘。平清盛の弟平頼盛の山荘があった。

大和田の泊の存在に気付く。宋の貿易の拠点にしようとした。弱点である南西の風を防げたら安全と考え、塩樋山をけずって築島(経が島)を造った。

## 福原遷都

(1) 福原に都を移した。(福原遷都)

新都着工(6・9) 和田の松原の西を原点にして町づくりを行った。その間、

頼朝拳兵(8・17)

源義仲拳兵(9・7)

富士川の戦い(10・24)で敗れ、維盛ら帰着。完成予定だった日月平安遷都決定

(2) 平清盛、死去

心労のためか、熱病で死去。

(1181年閏2・4)

福原遷都について参考となる文書を紹介します。

## 地理的見識に

### 裏打ちされていた

### 福原遷都

福原遷都の決断は大きな地理的見識に裏打ちされていた。陸上交通の面で六甲山地と大阪湾岸に挟まれた神戸は、西から畿内に入る関門の地で、大輪田泊があり瀬戸内海航路が直結している。しかもこの港を修築して宋との貿易を考える。遣唐使廃止後約250年もたつと、国際性を失っていた当時の一般リーダー達とは桁違いの見識を持つていたと言える。神戸に港をもたらしてくれたのは嬉しいが、頼朝と違って、都を移そうとしたように従来の価値観を払拭できなかったのが清盛の限界だったのかもしれない。

## 実践発表

# 姫路市の小中一貫教育の推進に おける兵庫教育大学との連携

— 姫路市立白鷺小・中学校を事例として —

発表者 姫路市立白鷺中学校 前校長 横内 恵  
 教頭 山口 偉一  
 姫路市立白鷺小学校 教頭 西田 耕太郎

### ◆はじめに◆

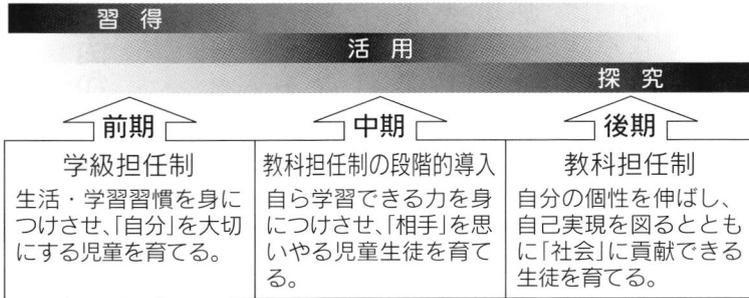
平成21年度より、「姫路市小中一貫教育推進モデル校」の指定を受け、共通の学校教育目標「確かな学力を基盤とした 総合的な人間力の育成」を掲げ、日々の教育を行っている。ドーナツ化現象によって、減少した児童生徒数を補うため、平成22年度からは小学校1年生のみ校区外募集を行っており、現在では、約5割の児童生徒が校区外から通学している。

### ◆教育課程の特色◆

小・中学校の9年間を前期・中期・後期の3つの段階に分け、「習得・活用・探究」の指導をどの学年でも大事にしなが、特に前期では習得、中期では活用、後期では探究に重点をおき

## 指導段階・方法

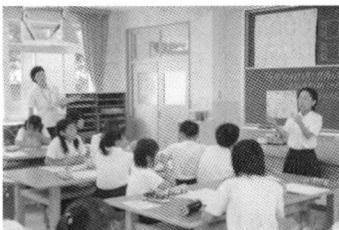
小1 小2 小3 小4 小5 小6 中1 中2 中3



9年間の連続性とスムーズな接続

## 授業交流

(異校種教師による授業)



中学校美術科教師による  
図画工作科の授業



小学校教師による理科の授業  
中学校教師とのTT

指導している。

また、小学校での学級担任制から中学校の教科担任制へのスムーズな接続ができるように中期から教科担任制を積極的に導入している。

また、具体的には小学校の外国語活動・音楽・算数・体育・図画工作の授業を中学校教師が、中学校の理科・算数・家庭科の授業を小学校教師が担当したり、小・中の児童生徒が一緒に授

## 小・中児童生徒 合同行事

コミュニケーション力の向上 自尊感情の育成



白鷺なかよし班 編制会



新入生歓迎行事

## 中学生と小学生の交流学習



### ・合同学習

中学生が小学生の学びをサポートする



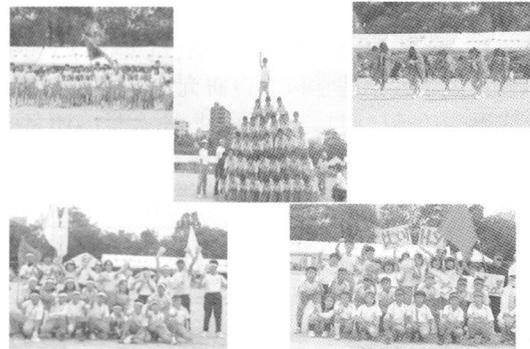
### ・合同授業

小・中学生が一緒に授業

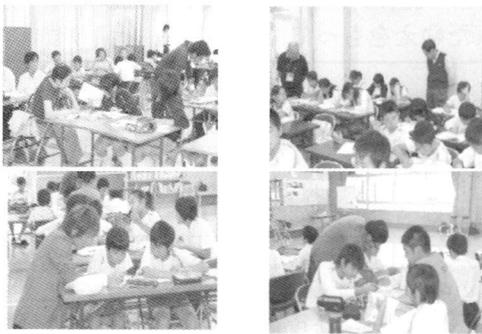
業を行う合同授業や、中学生が「ミニ先生」となって小学生を教える合同学習会や異年齢集団による交流活動等を通して、思いやりの心やコミュニケーション力、自己有用感の育成を図っている。

一方、地域も「学校支援地域協議会」を組織し、この小・中一貫教育を強力に支援している。協議会は地域の諸団体長や保護者代表で構成され、学校の教育全般について協議し、学校を強力にサポートしてくれている。

### 白鷺スポーツフェスティバル



### サタデースクール



- ・ 毎月第1・3土曜日 午前9時～11時
- ・ 小学校4年生から中学校3年生対象

### 学校支援地域協議会



- ・ 地域の諸団体長や保護者代表で構成
- ・ 学校教職員と学校の教育全般について協議し、学校を支援する

### 兵庫教育大学との連携

#### (2) 授業づくりにかかる連携

- ・ 教科ごと
- ・ H23年度 5教科
- ・ H24年度 5教科1部会
- ※ 姫路市教育委員会
- 「教育実践研究助成事業」



算数・数学分科会

兵庫教育大学の先生方に指導していただきながら、姫路市教育委員会では、

◆兵庫教育大学との連携◆

「国立大学法人兵庫教育大学と姫路市との連携に関する協定書」に基づき、大学研究者の支援を得て、先見・専門性に富んだ教育実践を推進している。具体的には、「学力調査及び生活調査」「校内研修」「授業改善の具体的方法」「小・中一貫教育の推進」などの領域で市内10校に年間5回程度大学教員の派遣を受けている。

平成19、20年度にかけて、5教科と道徳、総合的な学習の時間の「姫路市小中一貫教育標準カリキュラム」を作成した。平成21、22年には、新学習指導要領に準拠するとともに新たに音楽科、図画工作・美術科、図画工作・家庭科・技術家庭科、体育・保健体育科、特別活動を加え、「改訂版 姫路市小中一貫教育標準カリキュラム」を作成した。

#### ◆成果と課題◆

##### (1) 成果

- ・ いわゆる「這い回る」研究に終始することなく、その時々に応じた、研究の方向性を見いだすことができた。
- ・ 先進校の研究の成果や進捗状況などの情報を得ることができた。
- ・ 本校の小中一貫教育のねらい（小中の協働実践研究を通して授業力を向上させ、子どもの確かな学力を保障する）に合致した、授業研究を推進することができた。

##### (2) 課題

- ・ 学識経験者の連絡調整をどのように図っていくか。
- ・ 継続的に研究を推進していくための財政的な基盤をどのように確保していくか。

## 平成24年度 教育実践研究活動等に係る受賞者

本表彰事業は平成22年度から実施しています。

兵庫教育大学大学院学校教育研究科の修了生本人、または構成員とする団体の教育実践研究活動等における顕著な成果や功績に対し、学長と同窓会長の連名において表彰を行うものです。

本年度受賞されるのは次の4名（嬉野賞1名、奨励賞1名、特別賞2名）の下記の方々です。

	氏名	修了年月(期)	専攻・コース名	受賞理由
嬉野賞	なんば はるひこ 難波治彦 (岡山県)	昭和59(1984)年 3月(3期)	教科・領域教育専攻 自然系コース	理科教材の自主開発並びに教育実践に長年を携わり、理論と実験を融合させた数々の理科指導法を確立した。これらの成果に対し、科学振興に係わる公的各機関から数多くの表彰を得ている。
奨励賞	いけだ おんしろう 池田恩四郎 (愛媛県)	昭和59(1984)年 3月(3期)	教科・領域教育専攻 自然系コース	頻繁に開かれる市自然観察教室で児童生徒への現地指導を重ね、また、教員には教材開発や指導方法改善のための研修指導など、非常に豊富な指導実績があると共に、教員育成にも貢献し続けている。

なお、本表彰候補者として推薦があった次の方々は、教育実践研究活動等における実績評価に加え、大学院同窓会会長として大学及び大学院同窓会の発展に大きく寄与されたゆえをもって、「特別賞」を贈ります。

	氏名	修了年月(期)	専攻・コース名	受賞理由
特別賞	よしだ ひろし 吉田廣 (兵庫県)	昭和57(1982)年 3月(1期)	学校教育専攻 教育方法コース	市教育委員長及び市教育長の経歴がある。本学大学院修了後、県教育行政に携わった経験を生かして市教育の充実と発展に尽力し、相応の成果をあげた。 同窓会会長(第5代)を7期14年にわたり務める。
	やました ひろし 山下裕 (広島県)	昭和61(1986)年 3月(5期)	教科・領域教育専攻 芸術系コース	県教委指導職また学校長として精力的に組織を牽引し、教育現場の正常化並びに教員の育成に多大な成果を上げた。 同窓会会長(代6代)を1期2年務め、都道府県連携推進本部設置に関わり、その後の大学と同窓会の連携の礎を創った。

## 兵庫教育大学大学院同窓会感謝状が贈られる者

長年にわたり同窓会役員をお務めいただき、本会の発展にご尽力くださいました次の方々、平成22・23年度に役員を退かれました。本部活動の展開はもとより、各都道府県支部の要となって精力的にお務めくださり、その功績は非常に大きいものがあります。

深く感謝の意を表し、同窓会員の総意をもって感謝状と記念品をお贈りします。

	氏名	専攻・コース・期	ブロック(支部)	辞した時の役職
1	柳 生 和 男	学校教育専攻 生徒指導コース 1期	関東(千葉県)	都道府県評議員
2	須 山 嘉七郎	学校教育専攻 教育経営コース 6期	中部・東海(静岡県)	理事
3	牛 田 敏 雄	教科・領域教育専攻 言語系コース 4期	中部・東海(三重県)	監事
4	大 久 保 勉	学校教育専攻 教育経営コース 10期	東中国・四国(岡山県)	理事・都道府県評議員
5	竹 内 チカ子	学校教育専攻 教育方法コース 9期	九州・沖縄(長崎県)	都道府県評議員
6	糸 数 剛	教科・領域教育専攻 言語系コース 6期	九州・沖縄(沖縄県)	都道府県評議員

### 編集後記

(旬)日良居タイムス  
(山口県周防大島町)  
のスタッフの方々を含め、多くの方々のご支援・ご協力をいただき、なんとか職責(会報発行8回)を果たすことができました。誠にありがとうございました。

大盛会だった兵庫大会に続き、九州大会、山口大会が計画されています。全国大会等で、多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。

(山口県 西川敏之)



# 兵庫教育大学大学院同窓会第30期決算報告書

(収入の部)

自平成23年6月1日～至平成24年5月31日

科目	予算額	決算額	増減	摘要
会費	3,750,000	4,513,860	763,860	291名+10名
繰越金	7,786,492	7,786,492	0	
雑収入	508	98,057	97,549	利息 組織部返金
合計	11,537,000	12,398,409	861,409	

(支出の部)

部	款 項		予算額	決算額	増減	部	款 項		予算額	決算額	増減						
	款	項					款	項									
総務部	役員会費	旅費	650,000	852,610	△202,610	広報部	会報印刷費	印刷費	280,000	244,912	35,088						
		渉外費	会長旅費等	25,000	23,520			1,480	発送費	8,000	10,240	△2,240					
	冊子印刷費	印刷費	107,000	80,275	26,725		事務費	需要費	5,000	1,250	3,750						
	事務費	需用費	5,000	0	5,000			通信費	1,000	500	500						
		通信費	2,000	0	2,000			旅費	20,000	4,920	15,080						
		旅費	10,000	0	10,000			会議費	2,000	0	2,000						
		会議費	1,000	0	1,000			計	316,000	261,822	54,178						
	計		800,000	956,405	△156,405		事業部	事務費	需要費	5,000	0	5,000					
	会計部	事務費	需要費	10,000	7,130				2,870	通信費	2,000	0	2,000				
			通信費	15,000	20,230				△5,230	旅費	10,000	0	10,000				
旅費			15,000	0	15,000	会議費			2,000	0	2,000						
会議費			2,000	0	2,000	計	19,000	0	19,000								
計		42,000	27,360	14,640	組織部	事務費	活動推進費	ブロック・支部活動支援費	161,700	152,007	9,693						
研究部	研究会費	総会講師等謝金	80,000	80,000			0	需要費	20,000	0	20,000						
		支部研究会支援(講師謝金)	50,000	0			50,000	通信費	3,000	0	3,000						
	事務費	需要費	10,000	15,192			△5,192	旅費	50,000	0	50,000						
		通信費	5,000	5,360			△360	会議費	3,000	0	3,000						
		旅費	20,000	9,060	10,940	計	237,700	152,007	85,693								
計		175,000	118,869	56,131	事務局費	事務費	需要費	5,000	14,321	△9,321							
収入決算合計: 12,398,409円	支出決算合計: 7,724,062円	差引残高: 4,674,347円	第31期繰越金にあてます。	兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金会計は、次のとおりです。			*兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金*	定額貯金 5,543,000円 平成19年10月31日預入 《昭和59年8月24日預入分》	定額貯金 4,457,000円 平成24年5月14日預入	以上、報告いたします。	平成24年5月31日	兵庫教育大学大学院同窓会会長 大橋 博	同 副会長兼会計部長 北山 鎮道	旅費	400,000	358,360	41,640
														会議費	95,000	9,928	85,072
					計	500,000								382,609	117,391		
総会費	運営費	350,000	350,000	0													
院生協活動	運営費	100,000	100,000	0													
東日本震災復興支援金(宮城県・福島県・岩手県)		600,000	600,000	0													
運営積立金		5,000,000	4,457,000	543,000													
予備費		3,397,300	317,990	3,079,310													
繰越金・その他		3,397,300	317,990	3,079,310													
合計	計	11,537,000	7,724,062	3,812,938													

## ～\*～\*～\*～ 監査報告 ～\*～\*～\*～

上記の第30期決算報告並びに運営積立金会計を監査した結果、正確であることを認めます。

平成24年5月31日

兵庫教育大学大学院同窓会監事長 望月 茂

同 監事 中根弘之・早川 求・廣岡俊二

# 第32回兵庫教育大学大学院同窓会・兵庫大会



第32回 兵庫教育大学大学院同窓会全国大会（兵庫大会） 平成24年7月28日 於 神戸第一樓



▲ 懇 親 会



▲ 総 会

次回は

九州大会で

集おう

期日：平成25年8月3日(土)

～4日(日)

会場：福岡リーセントホテル



▲ 巡 検 (南京町)